

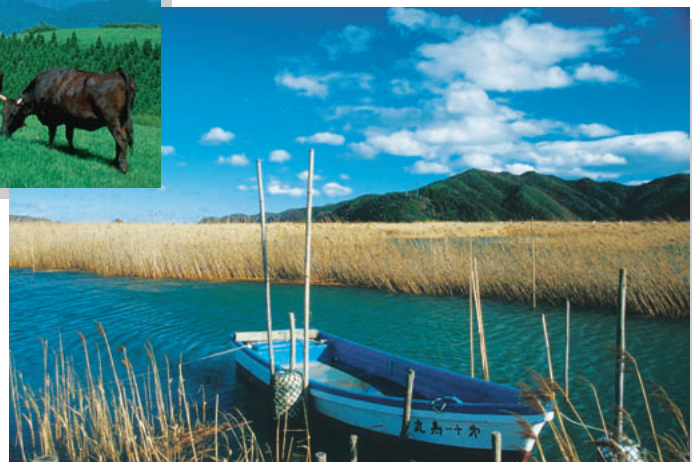
## 第3章 石巻市の現状

### (1) 自然環境

太平洋に面した本市は、海洋性の気候で、内陸地方と比較すると寒暖の差が少なく、東北地方の中では年間を通して比較的温暖な地域となっています。

北上川流域に肥よくな平たん地が広がり、市の北部から牡鹿半島にかけては北上山系の山々が連なっています。沿岸部は神割崎<sup>かみわりざき</sup>から牡鹿半島までがリアス式海岸に、旧北上川の河口である石巻湾側は、長浜から雲雀野<sup>ひばりの</sup>へと続く砂浜となっています。また、沖合には、金華山<sup>あじしま</sup>、網地島、田代島のほか多くの小さな島々が浮かび、多様な地勢上の特徴を有し、風光明媚な景観を形成しています。

新北上川の河岸にはヤナギの河畔林やヨシの群生地が広がり、ヨシ原は環境省の「残したい日本の音風景100選」<sup>※</sup>に選ばれています。北上山系の山々は、暖温帯から冷温帯へ移り変わる地域としての特徴を持つモミ・イヌブナ・ブナの自然林が原生林の面影をとどめていますが、近年では、その大部分をクリやコナラなどの二次林やスギなどの人工林が占めています。



金華山や沿岸地域ではアカマツの自然林が広く分布し、特に名振沖なぶりの八景島やけいじまは太平洋沿岸北部における暖地性植物群落として、国の天然記念物の指定を受けています。このように豊かな自然を有していますが、近年、松くい虫による山林への被害やニホンジカの過剰繁殖による食害が発生しています。また、全域において林業従事者が減少することにより、間伐等の手入れが行き届かない森林や粗大ごみなどの不法投棄が見受けられるようになってきました。

また、多くの貴重な生物も生息しており、翁倉山おきくらがイヌワシ繁殖地として国の特別天然記念物に、また、大指沖おおさしの双子島がウミネコ等の繁殖地として県の天然記念物に指定され、それぞれが、日本野鳥の会の重要野鳥生息地の指定を受けています。その他市内には、環境省及び県のレッドデータブックに掲げられている「マルコガタノゲンゴロウ」など絶滅危惧種きんが多く生息しています。



さらに、金華山は信仰の島であるとともに、ニホンジカやニホンザルの生息地として全国的にも有名で、ほぼ手つかずの原生林と生息するシカ、草、潮のにおいが感じられることから、環境省の「かおり風景100選」<sup>\*</sup>に選ばれています。

これらの豊かな自然景観を保全し、自然とのふれあいを推進するため、「旭山」が昭和15年に県内の平野部では唯一の県立自然公園に、昭和54年には北上高地から牡鹿半島へと続く北上山系の山々が「南三陸金華山国定公園」に、また、硯上山けんじょうざん、上品山ほんさん、牧山まんごくうら、万石浦を含む地域が「硯上山万石浦県立自然公園」にそれぞれ指定されています。加えて、「翁倉山」は自然環境保全地域の指定を受けています。



## (2) 人口・世帯

本市の人口は、平成17年の国勢調査では167,324人ですが、進学や就職に伴う若者の流出を主な要因として昭和60年以降減少が続き、今後この傾向は続く予測されます。

コーホート変化率法<sup>\*</sup>を用いた人口推計によると、10年後の平成28年には147,300人となり、平成17年に比べて、約20,000人の減少となります。

平成12年の国勢調査における高齢化率<sup>\*</sup>では、宮城県の平均17.3%を上回る20.6%となっています。また、地域ごとの高齢化の状況には大きな格差があり、雄勝・牡鹿エリアでは高齢化率<sup>\*</sup>が30.0%を超え、既に超高齢社会<sup>\*</sup>が現実のものになっています。

年齢構成の割合を平成12年と比較すると、平成28年の年少人口<sup>\*</sup>は12.5%で、2.3ポイントの減少、生産年齢人口<sup>\*</sup>は56.6%で、8.0ポイントの減少、その一方で、老年人口<sup>\*</sup>は31.0%で、10.4ポイント増加すると推計されます。

世帯数は平成12年まで増加傾向で推移していましたが、平成17年に減少に転じ、56,857世帯となっています。1世帯当たりの人員は平成17年で2.94人と、核家族化や少子化が進んでいます。また、高齢化の進行に伴い、65歳以上の一人暮らしの世帯も増加傾向にあり、平成17年で5,780世帯であり、全世帯の約10%を占めています。

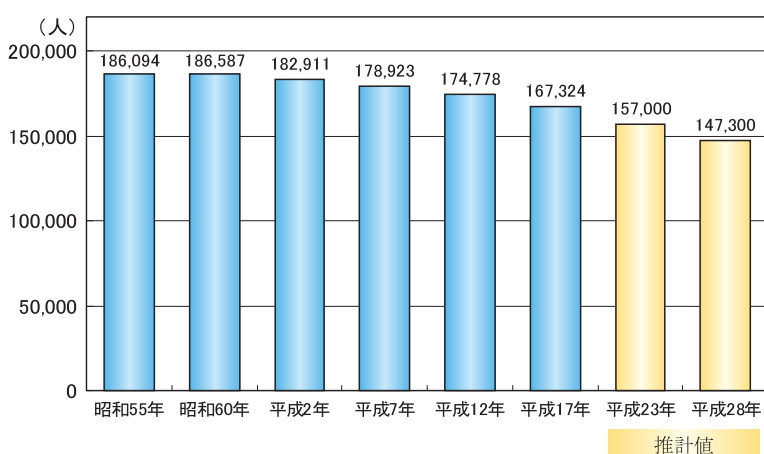


図1 総人口の推計

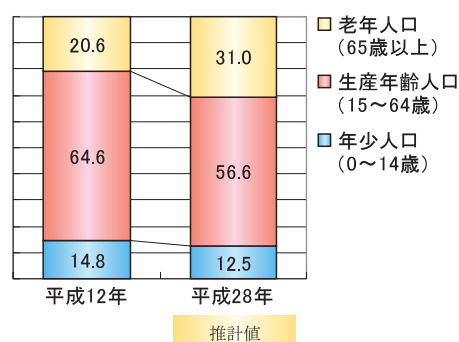


図2 年齢構成の推計

出典：国勢調査

### (3) 産業

本市の就業人口<sup>\*</sup>は国勢調査によると、平成2年の89,178人をピークに減少へと転じ、平成12年には84,075人となっています。就業人口<sup>\*</sup>に占める女性の割合は37.9%と、男性の割合の58.9%に対して20%以上低くなっており、特に20代後半から30代前半の子育て期に当たる女性の就業割合が低くなっています。

就業人口<sup>\*</sup>を産業別にみると、第1次産業は近年減少傾向にあり、平成7年の10,956人、構成比12.4%から、平成12年8,956人、10.7%と大きく減少しています。第2次産業は増加傾向で推移していましたが、平成7年の30,890人、構成比34.8%から、平成12年では28,397人、33.8%となり、減少へと転じています。第3次産業は平成7年46,827人から、平成12年では46,383人とやや減少していますが、構成比では52.8%から55.2%へと増加しています。

産業構造をみると、石巻エリアは宮城県の産業構成比とほぼ同程度で都市型の産業構造に、雄勝・牡鹿エリアは漁業の割合が高い沿岸型産業構造に、河北・河南・桃生・北上エリアは農業の割合が高い内陸型の産業構造になっており、本市全体としては、農業、漁業、工業、商業、そして観光がバランスよく発展し多様性に富んだ構造となっています。

#### ① 農業

本市は、北上川沿いに沖積平野<sup>ちゅうせき</sup>が広がり、肥よくな大地に恵まれた水田地帯は、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」の一大産地となっています。また、年間を通して寒暖の差の少ない比較的恵まれた気象条件の下、「きゅうり」をはじめ、「トマト」、「ねぎ」、「ほうれんそう」、「いちご」などの有数の野菜産地ともなっており、県内農業産出額の約8%を担っています。

また、大盤平<sup>おおばんだいら</sup>や上品山<sup>じょうほんさん</sup>にある市営牧場での牛の放牧のほか、ブロイラー<sup>\*</sup>の養鶏など畜産業も盛んに行われています。

農家戸数及び農業従事者数は年々減少傾向にあり、特に基幹的農業従事者の減少が著しくなっています。この要因としては、農業従事者の高齢化の急速な進行と後継者の農業離れによることとあわせ、平野部を中心に経営耕地面積が3ha以上の農家の割合が、平成12年の10.4%から平成17年には12.3%と徐々に高まっていることから、認定農業者など意欲ある担い手への農地の集約が進んでいることなども考えられます。



## ② 林業

市域面積の約50%を森林が占め、そのうち民有林が約80%を占めています。木材価格の低迷や生産コストの上昇のほか、外材の輸入増大などによる収益性の低下などにより、林業を取り巻く状況は非常に厳しくなっています。

そのような状況にあるものの、ヒラタケをはじめ特用林産物<sup>\*</sup>の生産なども行われています。

また、松林については、昭和50年に松くい虫被害が発生して以来、市全域にその被害が拡大し、その被害量は、県内の約3割を占める甚大なものとなっています。



## ③ 水産業

本市は、「漁港漁場整備法」に定める第1種から第4種及び特定第3種の5種類の漁港すべてを有しています。近接する金華山沖漁場は、世界三大漁場の一つに数えられ、「さば」、「かつお」、「たら」、「さんま」などを中心に多種多様な漁業資源を有しています。また、沿岸部では「かき」や「ほたて」、「のり」、「ぎんざけ」などの養殖が盛んに行われています。とともに、牡鹿・雄勝エリアなど三陸リアス式海岸の岩礁域では、「あわび」や「うに」、「わかめ」などの採取が行われています。さらに、内水面漁業<sup>\*</sup>では、新北上川での「しじみ」の採取や「さけ」のふ化・放流が行われており、正に「食材王国みやぎ」の一翼を担う地域となっています。しかしながら、漁業就業者が減少し、農業と同様に後継者が不足している状況にあります。



また、県内屈指の水産加工品の産地として、塩蔵品や練製品、冷凍食品などを生産していますが、素材の質などの優位性はあるものの、付加価値を持った製品が少なく、他産地との差別化が図られていない状況にあります。

その他、漁業では昭和57年に国際捕鯨委員会（IWC）で商業捕鯨モラトリアム（一時停止）が採択され、それまで牡鹿エリアで盛んに行われていた商業捕鯨が停止されました。しかし、平成18年のIWC年次会合総会において、商業捕鯨モラトリアムが必要ないという見解とIWCの正常化を求める「セントキッツ・ネービス宣言」が採択され、商業捕鯨の再開に向け大きく動き出しました。



#### ④ 工業

本市は、昭和39年に新産業都市<sup>\*</sup>の指定を受けてから、石巻工業港が開港するなど、工業都市としても発展してきました。近年、三陸縦貫自動車道の延伸とインターチェンジへのアクセス（連絡）道路の整備のほか、石巻トゥモロービジネスタウン<sup>\*</sup>への企業誘致の推進や石巻専修大学との連携強化など、産業基盤の充実に取り組んでいます。

製造品出荷額は県内シェアの約10%を占め、仙台市に次ぐ第2位となっています。製造品出荷額の内訳のうち基礎素材型製造業<sup>\*</sup>であるパルプ・紙・紙加工品製造業が約30%、木材・木製品製造業が11%、鉄鋼業が4%を占めています。一方、電気機械器具製造業などの加工組立型製造業の集積は少なく、出荷額割合も低くなっています。

また、地域独自の産業としては、国の伝統的工芸品に指定された「雄勝硯<sup>すずり</sup>」が600年の伝統を有し、伊達政宗公の霊廟瑞鳳殿<sup>れいびょうすいほうでん</sup>からも発掘されています。そのほかにも、「くじら」の菌を使った細工物やヒゲ工芸品などの工芸技術が継承されています。

## ⑤ 商業

本市の商圈は、太平洋沿岸から内陸部にかけての広い範囲にわたり、消費購買動向調査報告書によると、商圈人口としては経年変動も少なく28万人を擁しており、吸引人口では仙台市に次ぐ県内第2位の商圈となっています。

しかし、小売業の年間販売額は年々減少傾向にあり、販売効率は高くない状況にあります。また、消費者の買い物場所としては、衣料品や家電製品などの買回品<sup>かいまわりひん</sup>※を中心に仙台商圏などへの流出傾向が見られます。市内においては郊外店での購買割合が高まっており、中心市街地においては空き店舗や空き地が目立ち、吸引力や商業機能が低下しています。

各エリアの商業は、日用品や食料品などの最寄り<sup>もより</sup>品<sup>ひん</sup>※の購買先としての役割を担っており、地元購買率は河北エリアで63%、桃生エリアで58%などとなっています。いずれのエリアにおいても郊外店での購買割合が高まり、商店街の吸引力は低下している状況です。一方で、「ふれあいいちば菜花」や「やさいっ娘」などの農産物直売所といった生産者と消費者の顔が見える販売スタイルが行われるようになってきました。

## ⑥ 観光

本市は、優れた自然や地域固有の歴史・文化を活かした観光が中心となっています。

その中で、自然を満喫できる観光場所としては、漫画家がデザインしたロッジがある「田代島マンガアイランド」や東北有数の透明度を誇る「網地<sup>あじ</sup>白浜海水浴場」、遠浅で波が穏やかな「白浜海水浴場」、金華山を一望できる「おしか家族旅行村」、大海原を眼下に自然の中で大型遊具での遊びを楽しめる「峠崎<sup>とうげざき</sup>自然公園」などがあります。また、本市を一望しながらハイキングや散策が楽しめる「旭山<sup>あさひやま</sup>」や「上品山<sup>じょうほんざん</sup>」などもあります。

歴史・文化を体験できる場所としては、奥州三霊場の一つである「金華山」をはじめ、慶長遣欧使節船サン・ファン・パウティスタ<sup>サンファンパウティスタ</sup>※が見学できる「慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）」、北上川と北上運河などを紹介する「北上川・運河交流館 水の洞窟<sup>とうくつ</sup>」、石ノ森章太郎のマンガの世界を体験できる「石ノ森萬画館」、伝統工芸品である雄勝硯<sup>すずり</sup>の製作体験ができる「雄勝硯<sup>すずり</sup>伝統産業会館」などがあります。

祭りやイベントとしては、東北地方有数の打上げ数を誇る花火が夜空を彩る「石巻川開き祭り」や捕鯨文化を伝承する「牡鹿鯨まつり」、民俗芸能“はねこ踊り”のパレードに約1,000人が参加する「ものうふれあい祭“はねこ踊りフェスティバル”」などがあります。

平成16年の観光入込客数は約187万人となっていますが、夏に集中した通過型観光が多くなっており、市内宿泊客は23万人と入込客数の約12%となっています。

また、三陸の海の幸を活かした「みやぎ寿司海道」や、三陸が国内初の産金が行われた地であることにちなんだ「みやぎ黄金街道」など、三陸沿岸の自治体との連携による観光戦略活動も行っています。



## (4) 暮らし

### ① 保健・医療・福祉

本市の医療体制としては、石巻市立病院、雄勝病院、牡鹿病院の3病院と5つの診療所を中心に、<sup>へびた</sup>蛇田地区に移転新築された石巻赤十字病院のほか、その他の民間の病院・診療所などと連携し、医療サービスの提供を行っています。離島医療としては、田代島に診療所がありますが、<sup>あじしま</sup>網地島は平成11年に診療所が閉鎖されました。しかしながら、同年旧<sup>あみなが</sup>網長小学校の校舎を改装した<sup>あみしょう</sup>「網小医院」が開院し、島民への医療の充実が図られています。

さらに、石巻市立病院では「在宅療養科」を新設し、自宅で療養している患者に対しホスピスケア<sup>\*</sup>を主体として、定期的に訪問する在宅診療サービスを開始しています。

本市を含む石巻医療圏の医師の充足状況としては、ほとんどの診療科目において、宮城県の平均を下回る状況となっています。

休日や夜間の医療体制としては、夜間急患センターとともに、在宅当番医制<sup>\*</sup>及び病院群輪番制<sup>\*</sup>を行っていますが、小児科での救急医療については充実が望まれています。

65歳以上の一人暮らし世帯は増加傾向にあり、平成17年は5,760世帯で、全世帯の約10%を占めています。同時に、介護保険制度の要支援・要介護者も増加しており、平成17年の要支援・要介護認定者数は5,753人で、第1号被保険者（65歳以上人口）の14%を占めています。平成17年の認定者



の構成比は、要支援が21.2%、要介護1が30.4%などとなっています。

介護保険に対応した在宅老人サービス施設としては、デイサービス（日帰り介護）センター8か所、在宅介護者支援施設4か所のほか、平成18年度から地域包括支援センターが9か所設置されました。

老人福祉施設としては、特別養護老人ホーム10か所、老人保健施設5か所、養護老人ホーム1か所、軽費老人ホーム3か所、認知症高齢者グループホームが13か所あり、平成18年7月現在約1,400人が入所していますが、特別養護老人ホームや老人保健施設などを中心に入所希望者が多くなっています。

本市の障がい者は約7,000人（身体、知的、精神の合計）で、障がい者の社会参加を支援する施設は、通所授産施設5か所、通所更生施設2か所、小規模作業所6か所となっていますが、平成18年

度から施行された障害者自立支援法に対応した新体系へ移行する必要があります。しかしながら、移行する時期、施設におけるサービスの種別等が明確ではありません。

地域の福祉活動を支える民生委員・児童委員は369人おり、社会調査活動や相談活動、情報提供活動などを行っています。また、障がい者や高齢者の支援を行っているNPO\*としては、現在24団体が活動しています。

平成17年度の国民健康保険加入率は、牡鹿エリアが最も高く65.0%、次いで雄勝エリアが50.5%、河南・桃生エリア45.1%、河北エリア43.8%、北上エリア41.5%、石巻エリア40.4%となっています。保険税の収納率は低下傾向にあり、医療費も増大しています。



## ② 子育て

本市を含む宮城県石巻保健福祉事務所管内の合計特殊出生率<sup>\*</sup>は、平成16年全国値1.29に対して1.41と比較的高い状況となっていますが、全国的な動向と同じく減少傾向となっています。同時に、出生数についても減少が続き、平成12年の1,575人（人口動態統計）に対して平成17年は1,216人と359人の減少となっています。

子育て支援体制としては、子育て支援センターが石巻エリアに2か所、河北エリアと河南エリアにそれぞれ1か所あり、平成18年4月に中央児童館が石巻エリアにオープンしました。

保育所については、市立保育所が30か所、民間の認可保育所が3か所と無認可保育所が5か所あります。市立保育所の定員は1,885人で、平成18年4月1日現在、1,723人が入所しています。<sup>おきの</sup>萩浜、大川、雄勝、<sup>わかち</sup>和瀨、北村、牡鹿など都市周辺部において定員を下回る一方、都市部においては定員を上回る状況となっています。

延長保育については、市立保育所の鹿又保育所、須江保育所の2か所と、民間保育所2か所での実施にとどまっています。

また、放課後児童クラブ<sup>\*</sup>については、石巻・河南・桃生の3エリアで22施設が実施しています。



### ③ 生活環境

本市の大气、騒音、水質などの環境は、数値的にはおおむね良好な状態にはあるものの、魚町の化製場（鶏や魚の加工残さを原料とする飼料・有機質肥料の製造工場）等による悪臭は、工場周辺にとどまらず風向きによっては旧北上川西側の市街地まで届き、本市を訪れる観光客等に悪印象を与える原因にもなっています。

また、航空自衛隊松島基地の航空機による騒音は、影響緩和のための住宅防音工事等が国により進められてきましたが、多くの市民は、いまだ日常生活に支障があると感じています。

さらには、<sup>まんごくうら</sup>万石浦や<sup>ながつらうら</sup>長面浦などの閉鎖性海域<sup>\*</sup>を中心に、生活雑排水の流入により水質の悪化が進行しています。

平成16年度での1人1日当たりのごみの排出量は1,277gで、県平均の1,104gを上回っています。また、資源化の量については1人1日当たり212gと、県平均の227gを下回り、かつ、年々減少傾向となっています。このような状況から、石巻広域クリーンセンターには、年間処理能力63,000tに対し、約70,000tのごみが搬入されており、約7,000tの超過となっています。

また、一般廃棄物最終処分場は、石巻・河北・雄勝・河南・牡鹿エリアの5か所に設置されています。そのうち、最大の容量を占める石巻地区最終処分場の埋立て進捗率は平成16年度末で約

50%に達しており、平成25年までには100%に達すると見込まれています。

### ④ 都市基盤

本市の住宅地については、土地区画整理事業などにより、公園や区画道路等の整備を一体的に行い良好な居住環境が形成されています。

また、平成17年4月1日現在、767棟、1,815戸の公営住宅がありますが、昭和30年代、40年代に建築されたものが多くなっています。

市内の都市公園<sup>\*</sup>は80か所、面積135.32haで、1人当たりの公園面積は10.6㎡（都市公園面積/都市計画区域内人口）となっています。

上水道の普及率は平成17年に99.4%と、ほぼ市内全域に普及した状況になっていますが、一部老朽化し改修が必要な施設があります。また、市街地における公共下水道の普及率は着実に伸びており、平成17年は42.4%、水洗化率は69.6%となっています。しかしながら、同規模の自治体と比較すると、普及率、水洗化率ともに低い状況になっています。

また、情報基盤については、地域イントラネット<sup>\*</sup>の整備は終了したものの、いまだに、牡鹿半島や雄勝の名振湾<sup>なぶり</sup>から雄勝湾にかけてのエリアなど、携帯電話不通地域が存在しています。